

2024 年度 伊賀市外国人住民アンケート調査報告書

■はじめに

2024 年 12 月末現在、伊賀市の人口は 84,565 人であるが、そのうち外国人住民は 6,141 人であり、総人口の 7.26%を占めている。

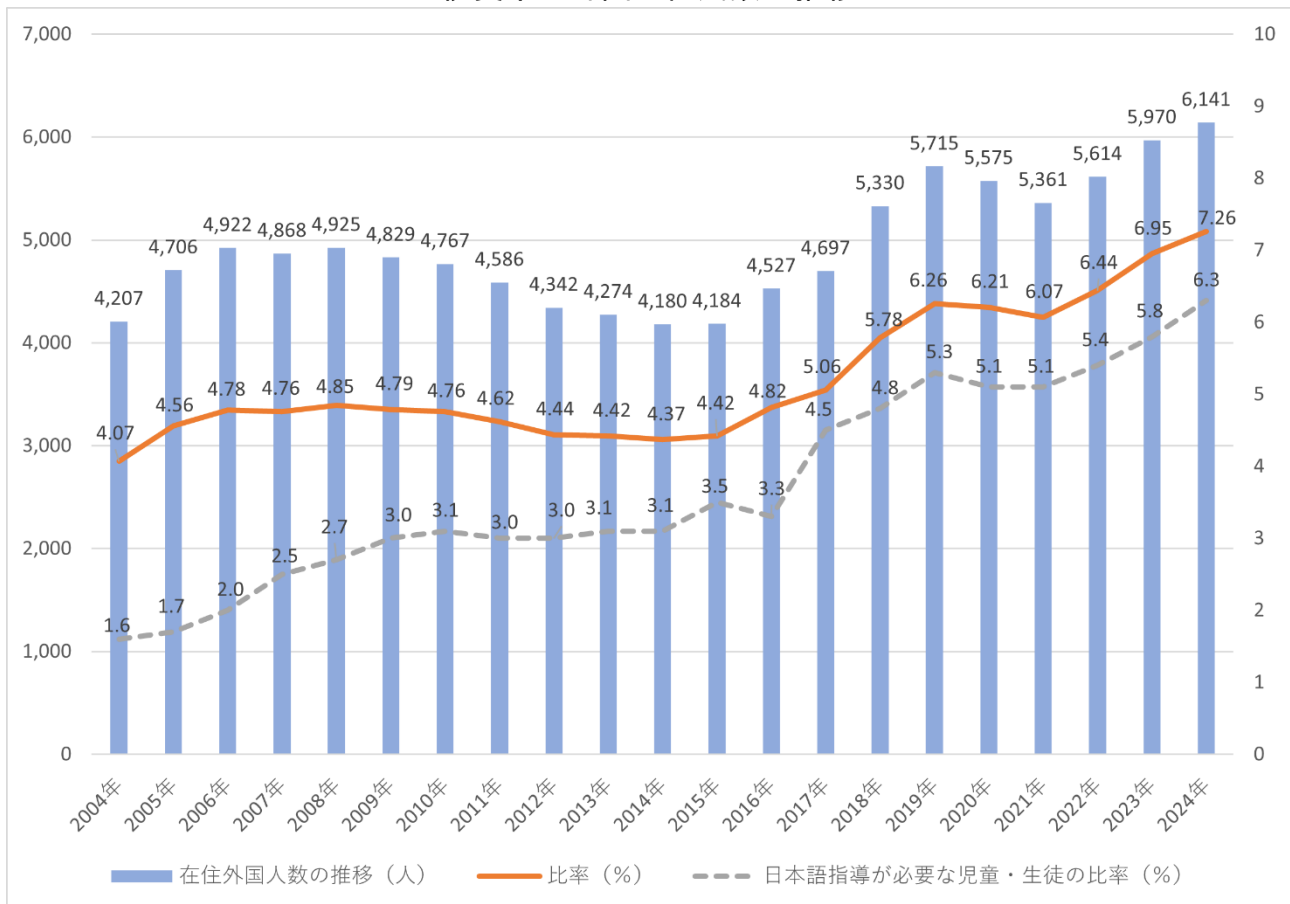
1990 年代から日系南米人労働者が多く来日し、外国人住民の永住化・定住化が進んだ。家族の呼び寄せや結婚等により2世代、3世代で居住している外国人世帯が増加し、市内の小中学校における日本語指導が必要な児童・生徒数の割合は 2024(令和6)年調査では、6.3%となっている。

2020 年の新型コロナウイルス感染症拡大により一時的に外国人住民数は減少したが、入国制限の解除により外国人住民数が急増し、人数、比率ともに過去最高となった。

また、国籍別にみると、技能実習制度や一定の専門性・技能を有する外国人の新たな在留資格「特定技能」が創設され、ベトナム、フィリピンやインドネシア等のアジア圏出身の外国人住民が増加している。

出身国も 45 カ国と多様な文化をもつ外国人がいることから、ますます日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい、多文化共生のまちづくりを進めていくことが必要である。

伊賀市の外国人住民数の推移



【アンケート調査結果概要】

■調査期間 2024 年 10 月 1 日～10 月 31 日

■対 象 者 2024 年 10 月 1 日現在、伊賀市に在住する 18 歳以上の外国人住民

■調査方法 住民基本台帳より 1,000 人を無作為抽出し、アンケート協力依頼はがきを送付。

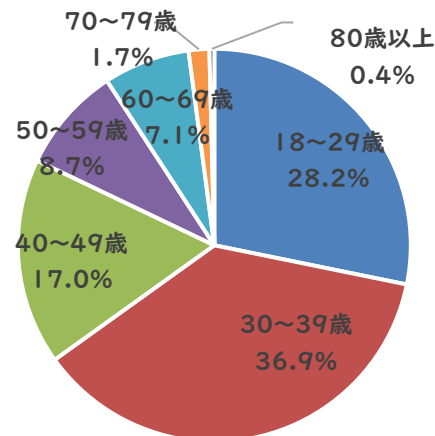
ホームページ、facebook、国際交流フェスタ、多文化共生課、団体への協力依頼等で実施。

■回 答 数 241 人

調査結果及び分析

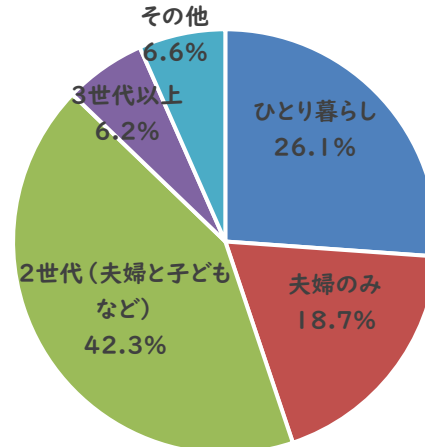
【あなた自身について】

問1 (1) 年齢	回答数	割合
18～29 歳	68	28.2%
30～39 歳	89	36.9%
40～49 歳	41	17.0%
50～59 歳	21	8.7%
60～69 歳	17	7.1%
70～79 歳	4	1.7%
80 歳以上	1	0.4%
合計	241	100.0%



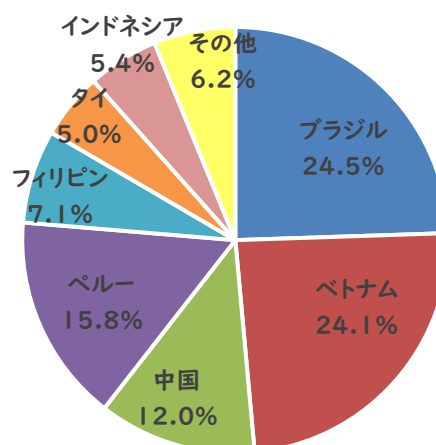
・「30～39 歳」が 36.9%と最も多く、次いで「18～29 歳」(28.2%)、「40～49 歳」と続く。回答者の 82.1%が 50 歳未満であった。

(2)世帯構成	回答数	割合
ひとり暮らし	63	26.1%
夫婦のみ	45	18.7%
2世代(夫婦と子どもなど)	102	42.3%
3世代以上	15	6.2%
その他	16	6.6%
合計	241	100.0%



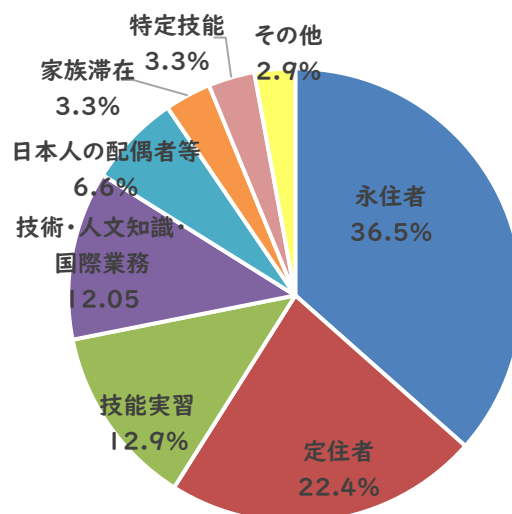
・「2世代」が最も多く、42.3% 「ひとり暮らし」が 26.1%であった。
「夫婦」のみ、「2世代」、「3世代」の合計は全体の 67.2%を占め家族で構成される世帯の回答者が多かった。

(3)国籍	回答数	割合
ブラジル	59	24.5%
ベトナム	58	24.1%
中国	29	12.0%
ペルー	38	15.8%
フィリピン	17	7.1%
タイ	12	5.0%
インドネシア	13	5.4%
その他	15	6.2%
合計	241	100%



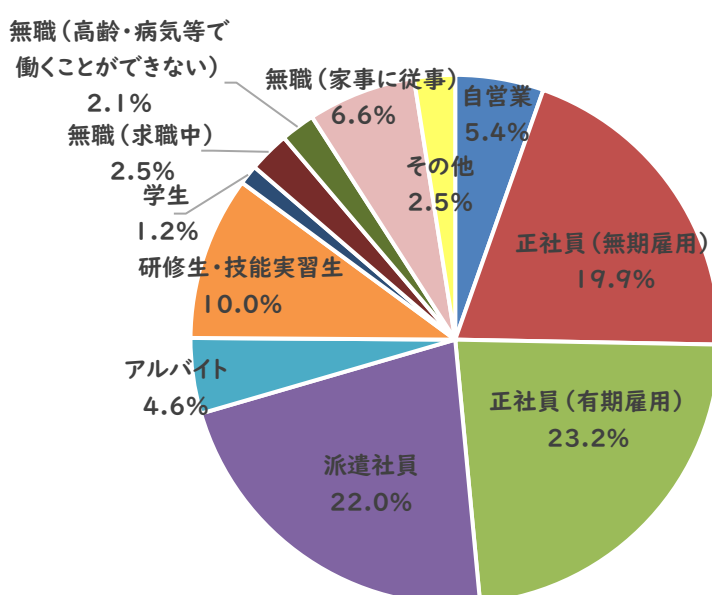
・回答者の国籍は、「ブラジル」が 24.5%と最も多く、次いで「ベトナム」(24.1%)、「ペルー」(15.8%)、「中国」(12.0%)であった。

(4)在留資格	回答数	割合
永住者	88	36.5%
定住者	54	22.4%
技能実習	31	12.9%
技術・人文知識・国際業務	29	12.0%
日本人の配偶者等	16	6.6%
家族滞在	8	3.3%
特定技能	8	3.3%
その他	7	2.9%
合計	241	100.0%



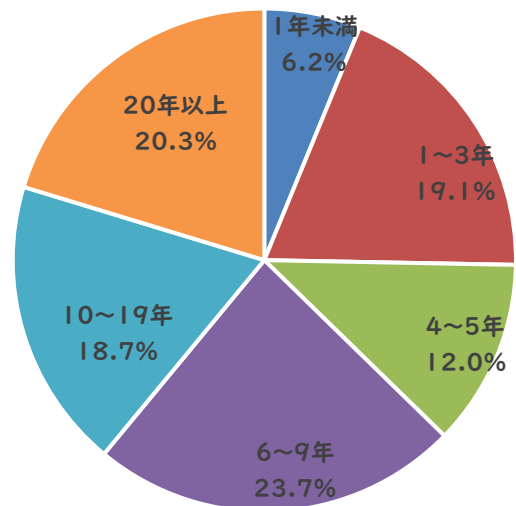
・永住者が最も多い。
・就労制限がない「永住者・定住者・日本人の配偶者等」の割合は、65.5%で「技能実習」は 12.9%、「特定技能」は 3.3%であった。

(5) 職業	回答数	割合
自営業	13	5.4%
正社員(無期 雇用)	48	19.9%
正社員(有期 雇用)	56	23.2%
派遣 社員	53	22.0%
アルバイト	11	4.6%
研修生・技能実習生	24	10.0%
学生	3	1.2%
無職(求職中)	6	2.5%
無職(高齢・病気等で働くことができない)	5	2.1%
無職(家事に従事)	16	6.6%
その他	6	2.5%
合計	241	100.0%



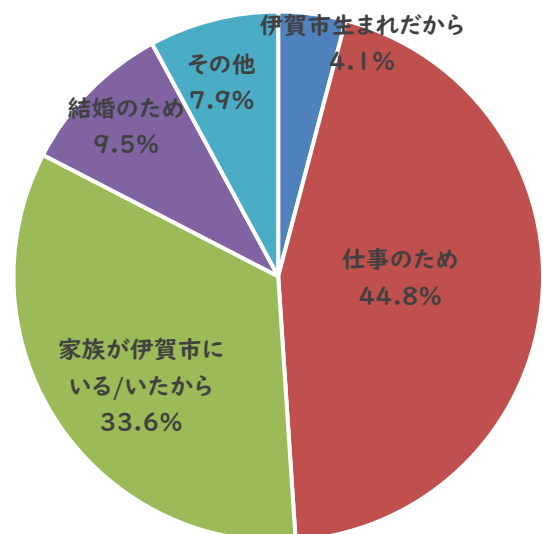
・「技能実習生」(10.0%)を除き、「派遣社員」(22.0%)、「正社員(無期雇用)」(19.9%)、「正社員(有期雇用)」(23.2%)が多くを占めている。有期雇用が多く不安定な雇用条件のもと働いていることがわかる。

(6)日本での滞在年数(通算)	回答数	割合
1年未満	15	6.2%
1～3年	46	19.1%
4～5年	29	12.0%
6～9年	57	23.7%
10～19年	45	18.7%
20年以上	49	20.3%
合計	241	100.0%



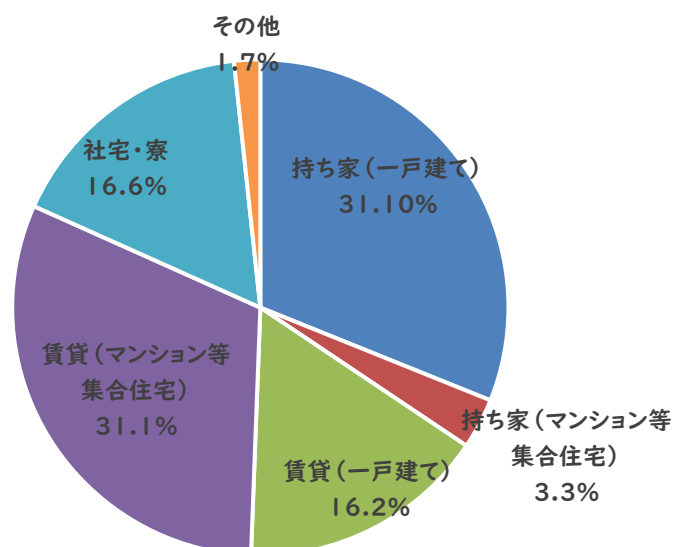
・10年以上日本に住んでいる割合が、39.0%で約4割を占めている。

(7) 伊賀市に住んだ理由	回答数	割合
伊賀市生まれだから	10	4.1%
仕事のため	108	44.8%
家族が伊賀市にいる／いたから	81	33.6%
結婚のため	23	9.5%
その他	19	7.9%
合計	241	100.0%



・「仕事のため」(44.8%)が最も多く、次いで「家族がいる／いたから」(33.6%)となっている。

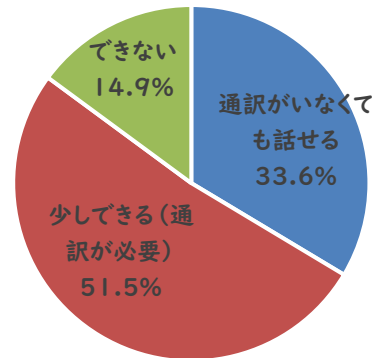
(8) 住居形態	回答数	割合
持ち家(一戸建て)	75	31.1%
持ち家(マンション等集合住宅)	8	3.3%
賃貸(一戸建て)	39	16.2%
賃貸(マンション等集合住宅)	75	31.1%
社宅・寮	40	16.6%
その他	4	1.7%
合計	241	100.0%



・賃貸の住宅に住む割合が高いが、「持ち家」と答えた割合 31.1%おり、「賃貸(一戸建て)」(16.2%)と合わせると、47.3%となっている。一戸建てに住む外国人も増えていることがわかる。

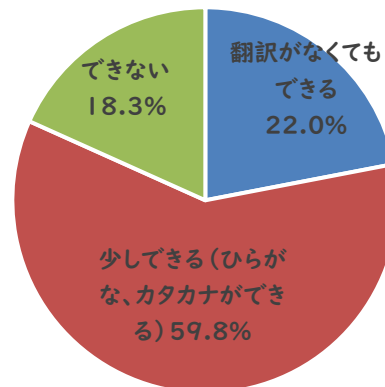
【日本語について】

問2 日本語を話せますか。	回答数	割合
通訳がいなくても話せる ↑	81	33.6%
少しできる(通訳が必要)	124	51.5%
できない	36	14.9%
合計	241	100.0%



・「通訳がいなくても話せる」(33.6%)と「少しできる」(51.5%)を合わせると約85%となっている。

問3 日本語を 読んだり 書いたり できますか。	回答数	割合
翻訳がなくてもできる ↑	53	22.0%
少しできる(ひらがな、カタカナが できる)	144	59.8%
できない	44	18.3%
合計	241	100.0%

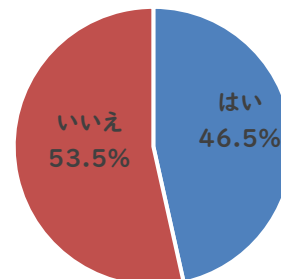


・「翻訳がなくてもできる」が 22.0%いる。

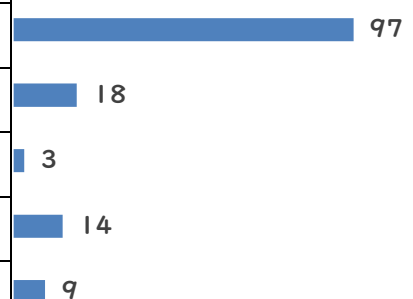
・「少しできる」(59.8%)と「できない」(18.3%)を合わせると約 80%となっている。

・日本語が話せない人の割合(14.9%)より「読んだり書いたり出来ない」割合(18.3%)の方が高く、文字習得が難しいことがわかる。

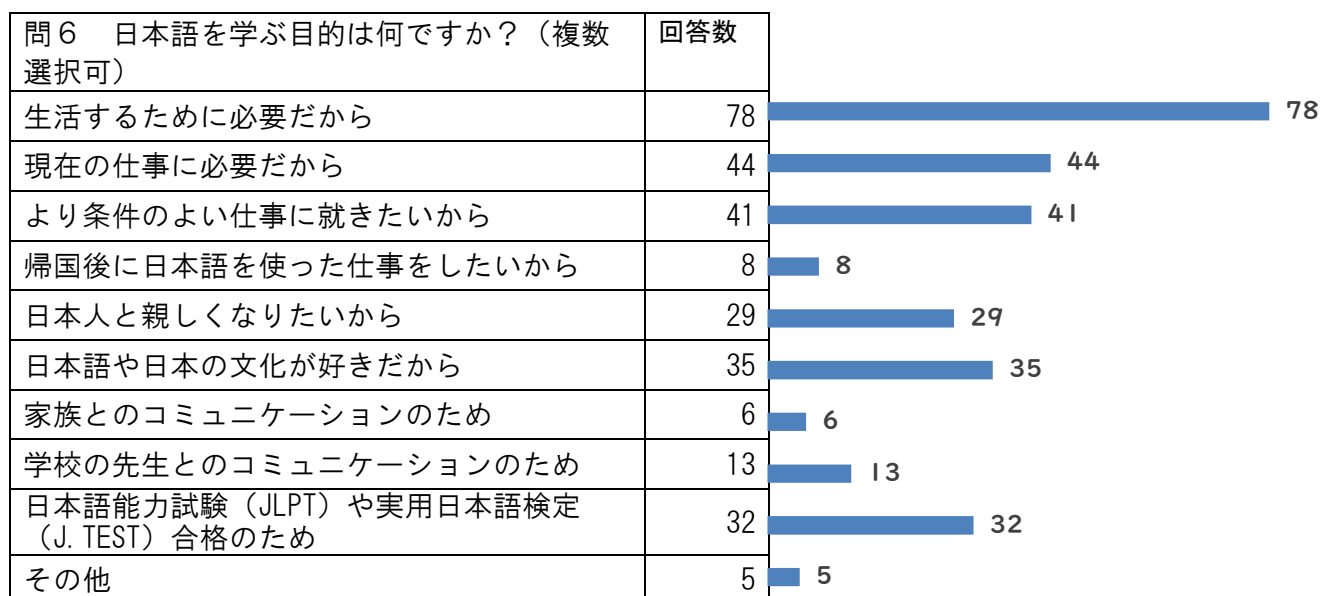
問4 あなたは今、日本語を学んでいますか。	回答数	割合
はい	112	46.5%
いいえ	129	53.5%
合計	241	100.0%



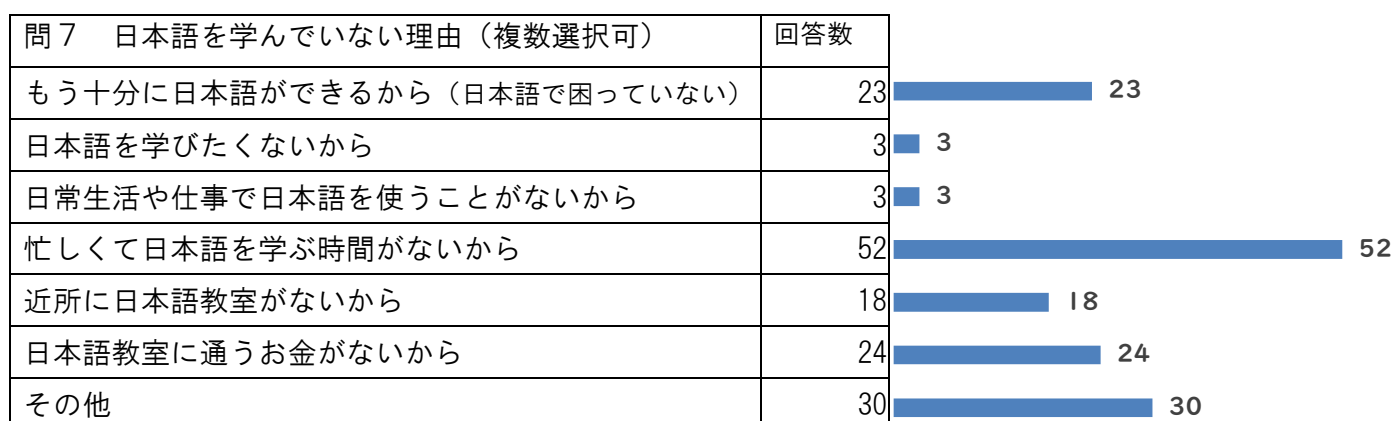
問5 どうやって日本語を学習していますか？(複数選択可)	回答数
家で、自分で学習している	97
会社で日本人従業員に教えてもらっている	18
会社で日本語の先生に教えてもらっている	3
ボランティア教室で勉強している	14
その他	9



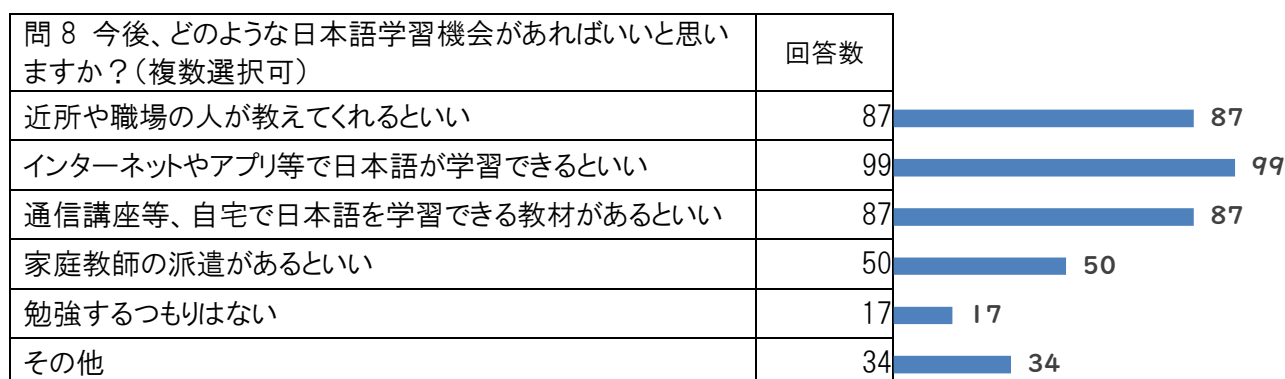
・「日本語を学んでいる」(46.5%)と回答した人の学習方法では、「家で、自分で学習している」が最も多く、次いで「会社」や「ボランティア教室」となっている。



・日本語を学ぶ目的は、「生活するために必要だから」が最も多く、「現在の仕事に必要なだから」、「より条件のよい仕事に就きたいから」と続く。仕事以外にも日本人とのコミュニケーションを図るために必要と感じている回答もみられた。

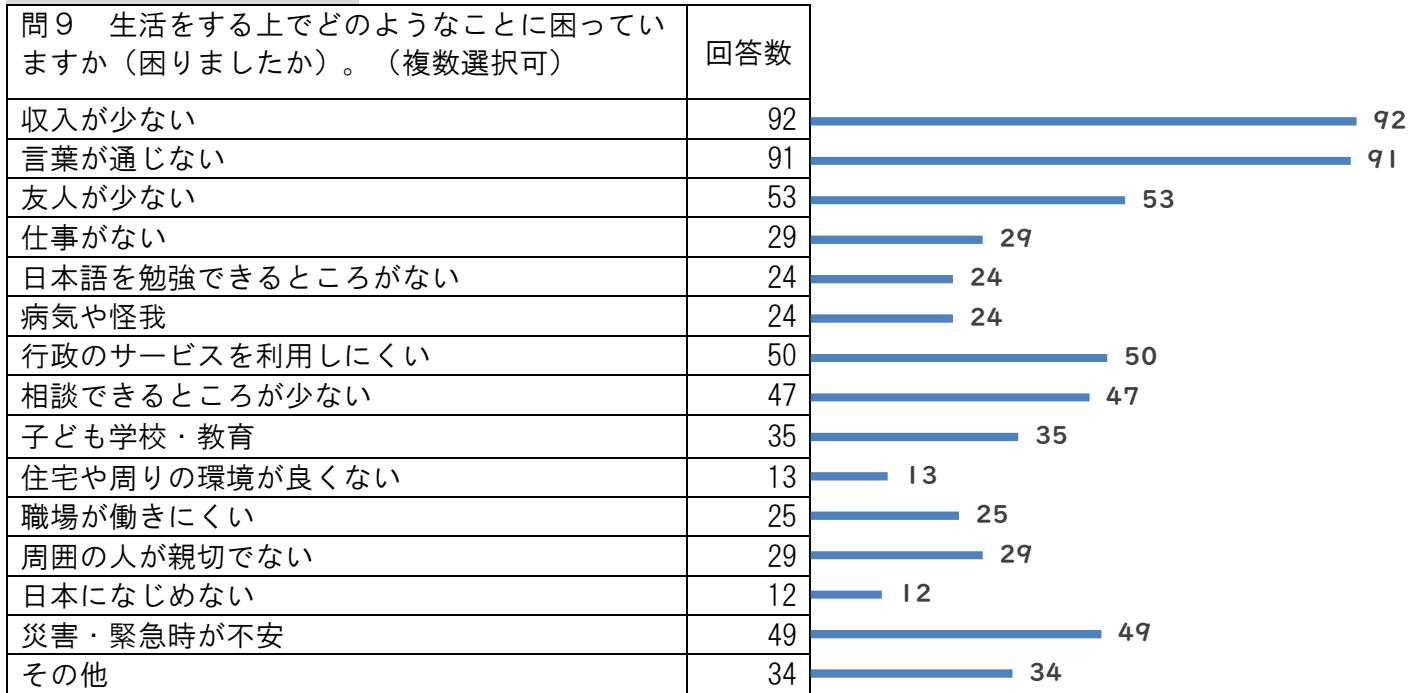


・日本語を学んでいない理由としては、「忙しくて日本語を学ぶ時間がないから」が最も多く、「日本語教室に通うお金がないから」「近所に日本語教室がないから」など生活スタイルや日本語教室に通える環境にないと考えている回答が多かった。

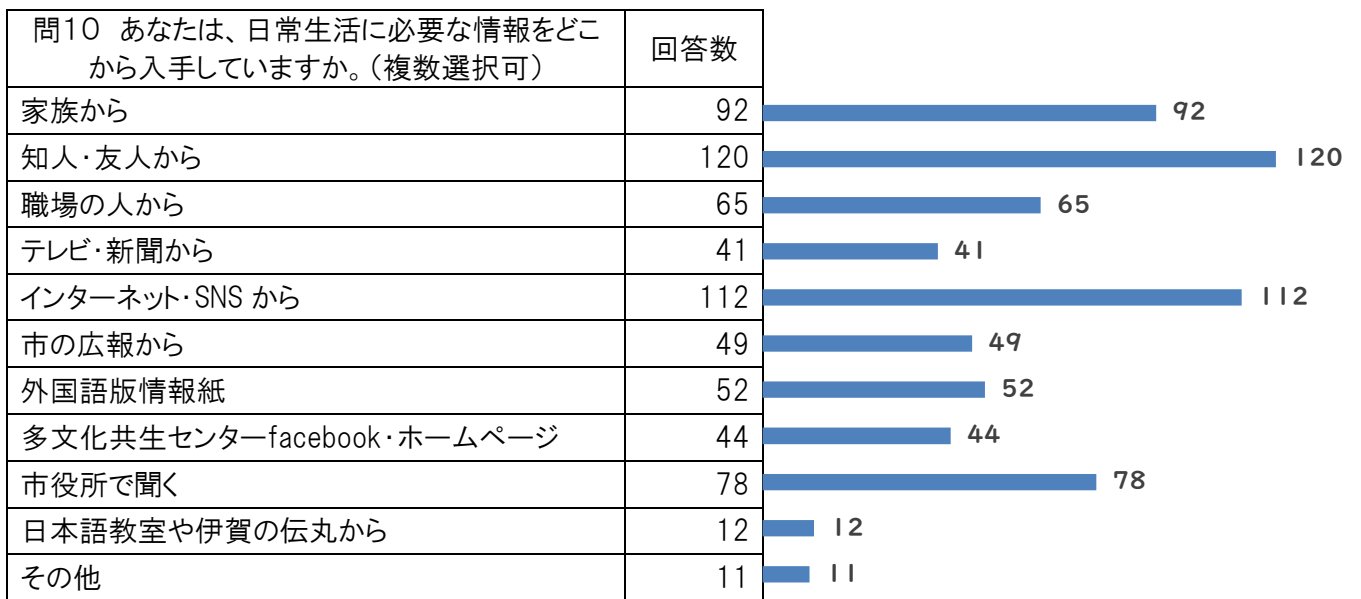


・日本語の学習機会については、インターネットやアプリの活用、通信講座など自宅で学習できるスタイルを希望していることがわかる。また、近所の人や家庭教師など自分のニーズにあった人と学習したいという希望があることもわかる。

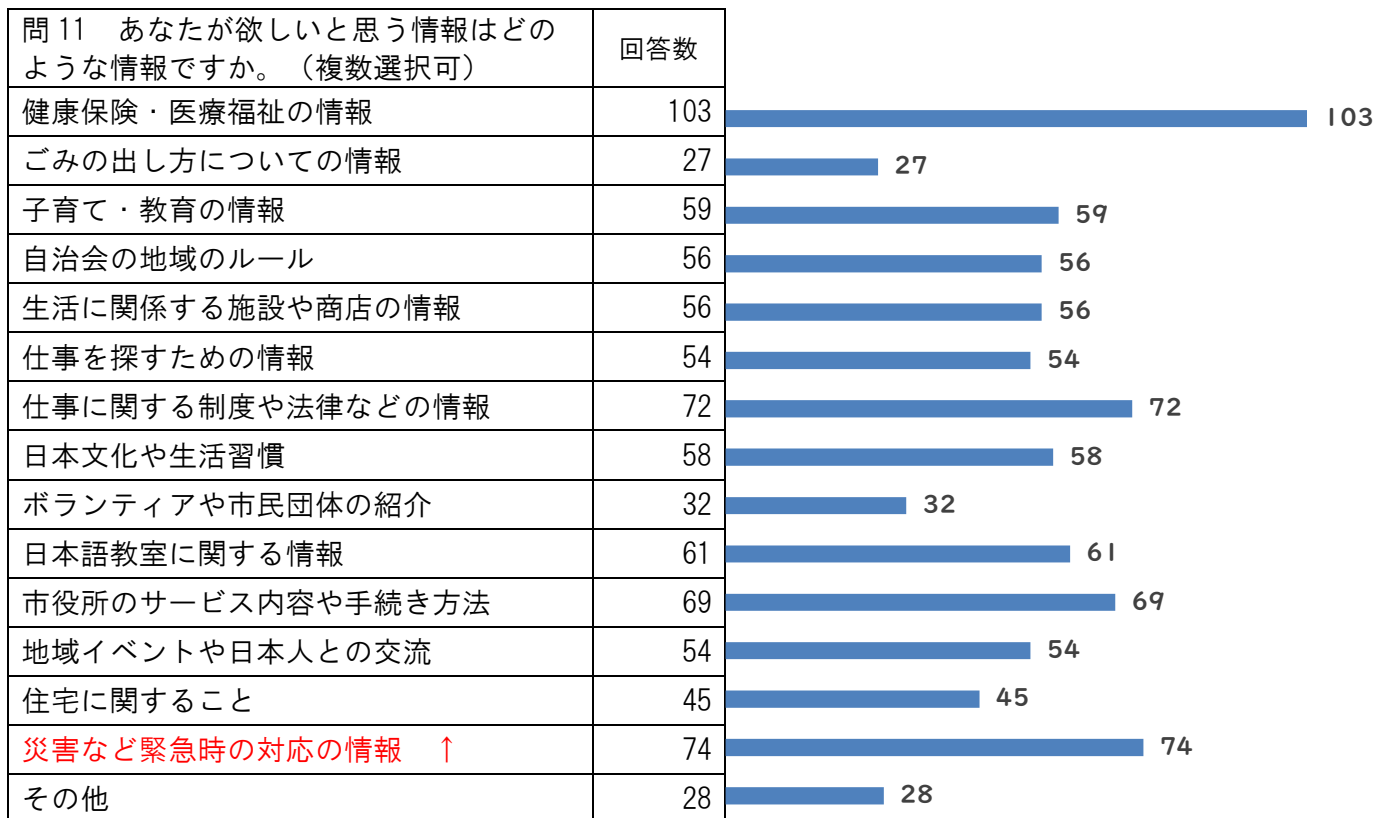
【情報・交流について】



・生活の困り事に関しては、「収入が少ない」との回答が最も多かった。次いで「言葉が通じない」や「友人が少ない」という回答が続いた。

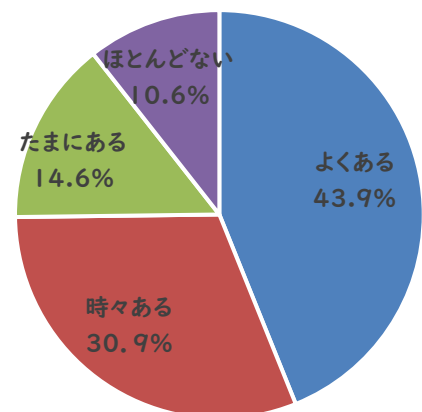


・情報源は、「知人・友人から」と「インターネット・SNS から」が多く、次いで「家族から」、「市役所で聞く」となっている。広報媒体や市からの広報物から情報を得ているとの回答もある。



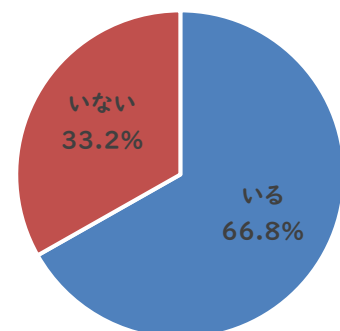
・伊賀市では多言語情報紙 IGA を発行しているが、アンケート結果にある「欲しいと思う情報」を掲載しており、ニーズにあった広報を行っていることがわかる。市からの多言語情報について、より周知し生活に密着した情報提供を行っていく必要がある。

問 12 あなたは、日常生活で日本人と会話することがありますか。	回答数	割合
よくある	108	43.9%
時々ある	74	30.9%
たまにある	35	14.6%
ほとんどない	24	10.6%
合計	241	100.0%



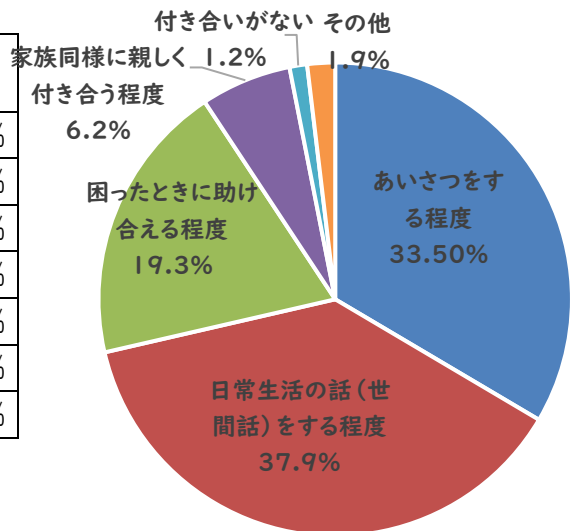
・日本人と会話することが「よくある」の割合(43.9%)が最も高く、次いで「時々ある」の割合が(30.9%)となっており、日常的に日本人と何らかの接点がある人が 74.8%となっている。

問 13 あなたは、伊賀市に住む日本人の友人や同僚がいますか。	回答数	割合
いる	161	66.8%
いない	80	33.2%
合計	241	100.0%



・「友人や同僚がいる」の割合は 66.8%だった。この結果は会話する関係が「よくある」、「時々ある」の割合と近い。

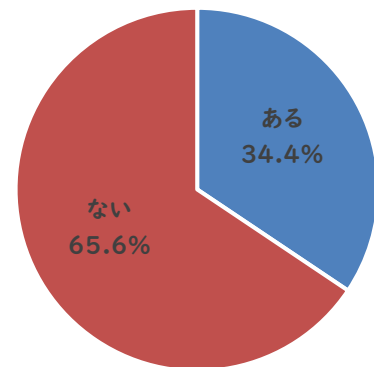
問 14 日常生活で日本人とどのような交流をしていますか。	回答数	割合
あいさつをする程度	54	33.5%
日常生活の話(世間話)をする程度	61	37.9%
困ったときに助け合える程度 ↑	31	19.3%
家族同様に親しく付き合う程度	10	6.2%
付き合いがない	2	1.2%
その他	3	1.9%
合計	161	100.0%



・交流の内容は、日常生活の話(世間話)の割合(37.9%)が最も多く、次いで「あいさつをする程度」(33.5%)、困った時に助け合える程度」(19.3%)となっている。

【人権・子育てについて】

問 15 あなたは、これまでの伊賀市での生活において、3年以内に差別を受けた経験がありますか。	回答数	割合
ある	83	34.4%
ない	158	65.6%
合計	241	100.0%

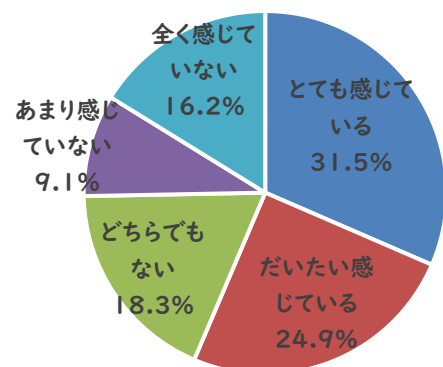


・差別を受けた経験があると回答した割合は、34.4%であった。

○問 16 問 15 の回答を選んだ理由

- ・日本語がわからないという理由で除外されました
- ・日本人は外国人に対して偏見を持っています。私は日本語を話せますが、見た目は外国人で、日本語を話し始めると扱いが違います
- ・職場での偏見、外国人嫌悪
- ・外国人であることを理由に家を借りられませんでした
- ・時々、日本語がわからず、孤立してしまうことがありました

問 17 伊賀市は子育てしやすいと感じていますか。1つ選んでください。	回答数	割合
とても感じている	76	31.5%
だいたい感じている	60	24.9%
どちらでもない	44	18.3%
あまり感じていない	22	9.1%
全く感じていない	39	16.2%
合計	241	100.0%



・子育てしやすいと「とても感じている」割合は、31.5%であった。次いで「だいたい感じている」が 24.9%で「どちらでもない」が 18.3%であった。

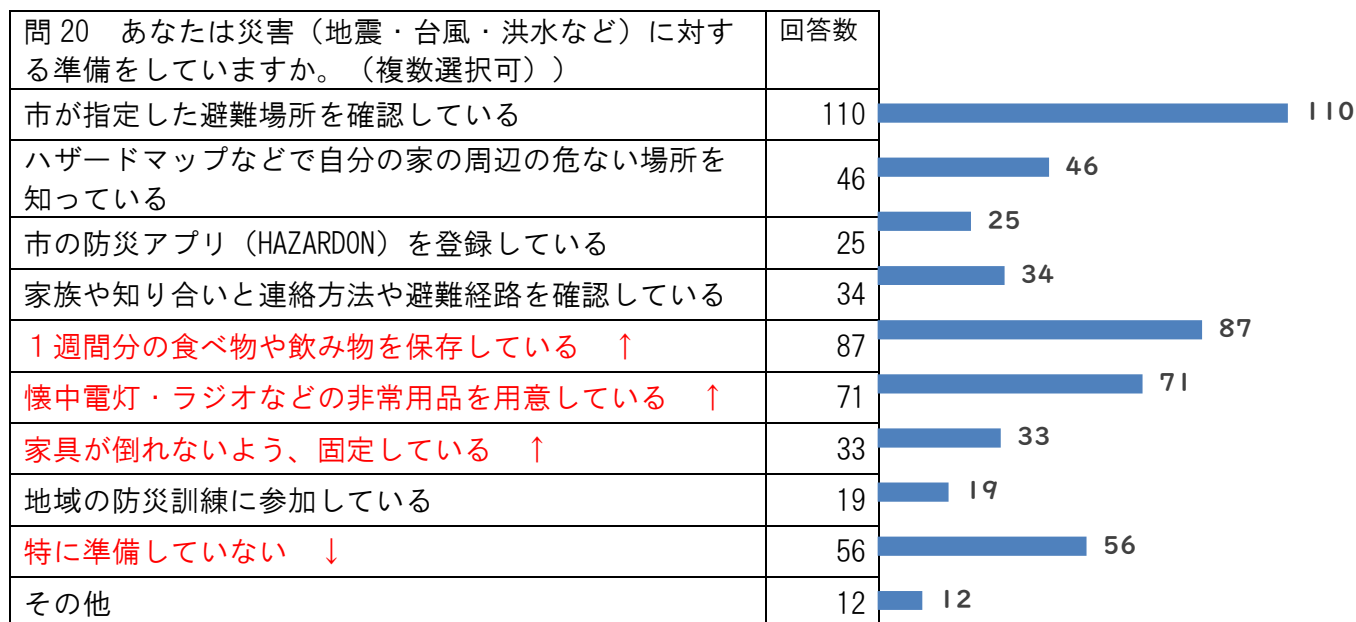
○問 18 問 17 の回答を選んだ理由

- ・安全
- ・こどもの病院代は無料、小学校中学校は無料です
- ・外国人の人がいっぱいいるから 学校とか保育園とか
- ・伊賀市は、こどもたちが学校で受けるサポートのおかげで、子育てしやすい場所です。健康面においても、クリニックが近くにあり、アクセスが容易です。こどもへの政府支援も非常に素晴らしいと思います。この街はのどかで、たくさんの木々や自然活動を楽しめる場所があります。
- ・病院に行ったとき、言葉がわからない私でも先生はとても熱心で、市役所にはベトナム語の通訳がいて、何か問題があれば頼んで助けてもらうことができましたし、母子手帳にベトナム語が書かれていて、病院でもベトナム語があったので、医者にかかりやすかったです
- ・こども向けのイベントやアクティビティがたくさんあります
- ・伊賀の街は自然が多く、静かで安全だと感じ、将来、こどもたちをここで育てたいので、伊賀の街が適していると思います。
- ・私の娘たちはここで育ちましたが、私が住んでいた他の人々と比べると、さらに落ち着いた街だと思います
- ・私の孫たちがここに住んでいて幸せだからです
- ・ここでこどもを育てるのには、かなりのお金がかかります。
- ・こどもの国のような公園がなく、通りには植物や蚊がたくさんいて、市町村は時間通りに掃除をしません
- ・親のどちらかが働いていない場合、希望する保育園に入るのは少し難しいです
- ・託児所の空きはありません
- ・特別なこどもたちへの十分なサポートはなく、支援機関には欠員がなく、専門家もいません
- ・学校に通い始めるのは難しい

【災害について】

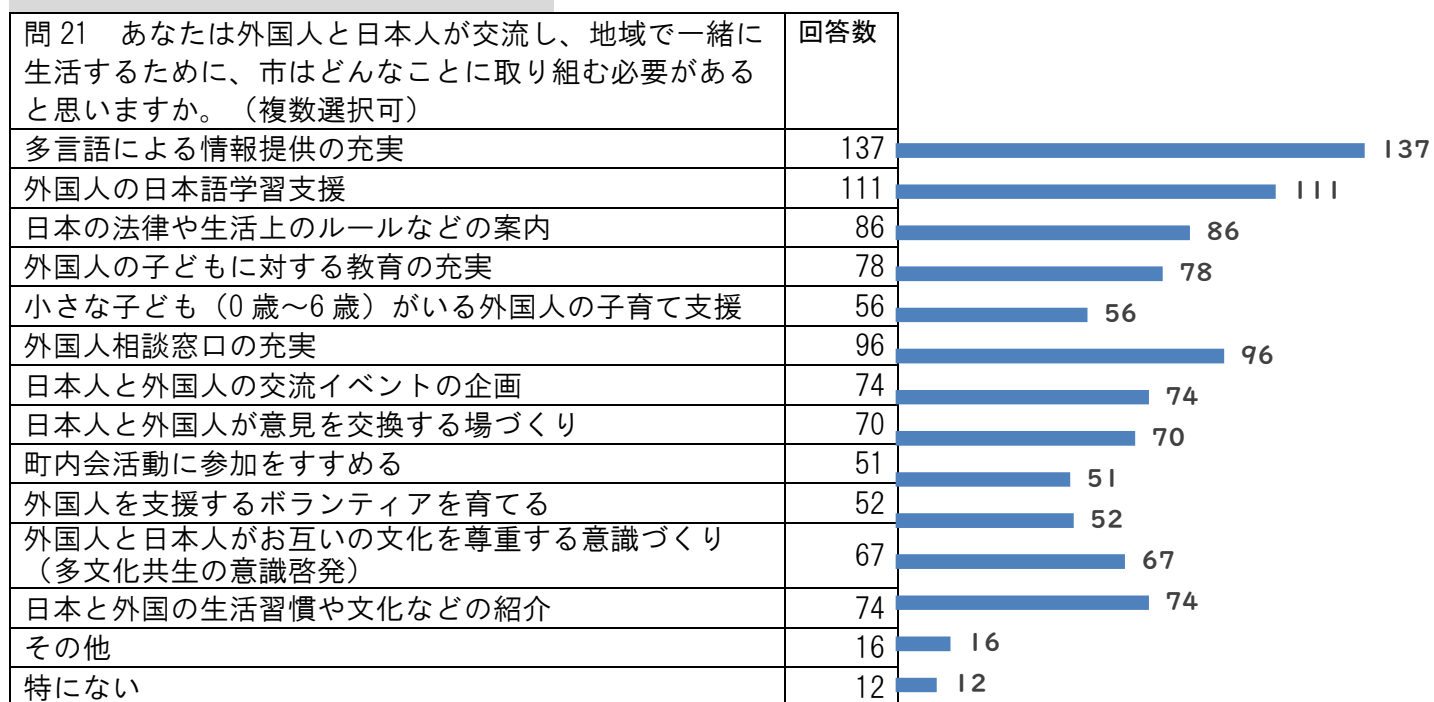
問 19 地震などの大きな災害が起きた時に、あなたはどのようなことが心配ですか。（複数選択可）	回答数	
どこに避難したらよいか分からない	86	86
家族や友人との連絡	113	113
災害情報をどこから得られるか	61	61
理解できる言語で情報が得られるか	76	76
周りの人に自分の意志や願いが通じるか ↑	61	61
わからない	27	27

・災害時の心配は、「家族や友人との連絡」が最も多く、次いで「どこに避難したらよいか分からない」、「理解できる言語で情報を得られるか」と回答した数が多い。



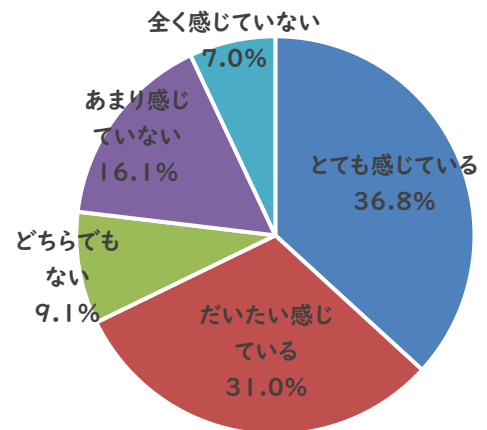
- ・災害に対する準備として、「避難場所を確認している」との回答が最も多い。次いで、食料、飲み物、非常用品の備えをしていると回答した人が多かった。
- ・「特に何もしていない」と回答した人も一定数いた。

【多文化共生のまちづくりについて】



- ・市の取り組みについては、「多言語による情報提供の充実」が最も多く、「外国人の日本語学習支援」や「外国人相談窓口の充実」など、生活にかかる支援について必要と思う人が多かった。
- ・「日本人と外国人の交流イベントの企画」、「日本人と外国人が意見を交換する場づくり」、「外国人と日本人がお互いの文化を尊重する意識づくり」など市民同士の交流を必要と思う人も多かった。

問 22 伊賀市に住んでよかったと感じていますか。1つ選んでください。	回答数	割合
とても感じている	89	36.8%
だいたい感じている	75	31.0%
どちらでもない	22	9.1%
あまり感じていない	38	16.1%
全く感じていない	17	7.0%
合計	241	100.0%

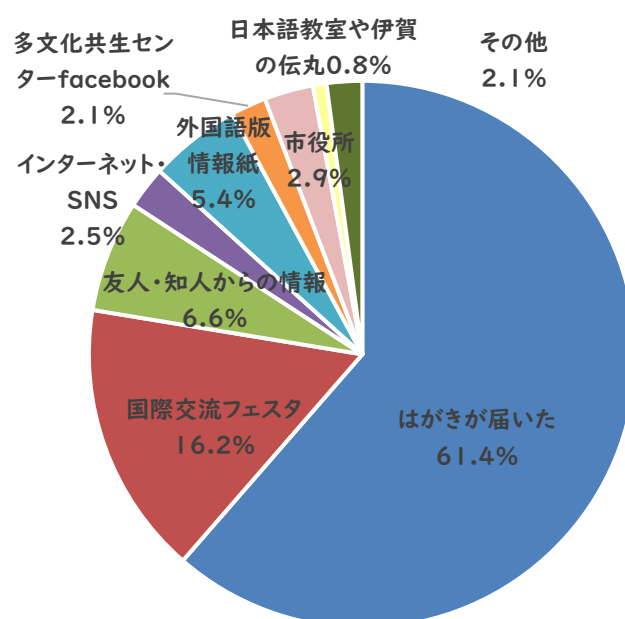


・伊賀市に住んで良かったと「とても感じている」割合は、36.8%だった。「とても感じている」と「だいたい感じている」を合わせると 67.8%となっている。

【問 23】 問 22 の回答理由

- ・伊賀市では外国人もよく受け入れられています
- ・住民はフレンドリーです
- ・街はとても静かで、住むのにとても良いです。
- ・伊賀町は静かで、人々は親切で、伊賀日本語の会で日本語を勉強するのが楽しいです。
- ・静かで、大都市に近く、自然が近く、フレンドリーな人々
- ・都市は住むのに十分で、大きすぎず、小さすぎず、生活に非常に便利です
- ・自然が良いです
- ・町がきれいです
- ・治安がいい 友達いっぱいいること
- ・自分のホームタウンみたいです
- ・人々は親切です
- ・絶好のロケーション、主要な都市へのアクセスがしやすい
- ・自然が豊かで、ここにいて安心感を覚えます。それは良いことです。
- ・静かで優しい日本人がいること
- ・あまりでかけないから
- ・交通が不便
- ・社会福祉が十分でない
- ・アプリを見ると、紙に書いたものと同じ情報がなく、すべてが異なっています。私たちにとっての情報はますます少なくなっています
- ・若者が楽しめる場所はありません。映画館はなく、毎週末、友達と大阪に行きます
- ・税金が高額で、人的資源が少ない
- ・商業やレジャーの選択肢の欠如

問 24 あなたはこのアンケートをどこで知りましたか。	回答数	割合
はがきが届いた	148	61.4%
国際交流フェスタ	39	16.2%
友人・知人からの情報	16	6.6%
インターネット・SNS	6	2.5%
外国語版情報紙	13	5.4%
多文化共生センターfacebook	5	2.1%
市役所	7	2.9%
日本語教室や伊賀の伝丸	2	0.8%
その他	5	2.1%
合計	241	100%



・「はがきが届いた」が 61.4%、「国際交流フェスタ」16.2%の方法で回答をした人を合わせると 77.6%だった。